



# 筑紫女学園大学リポジット

## Report on Educational "Integrated Practice Subjects" of Child Care Teacher Training schools

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山之内, 輝美, 永久, 欣也, 古賀野, 卓, YAMANOUCHI, Terumi, NAGAHISA, Kinya, KOGANO, Taku メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/303">https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/303</a>

# 保育者養成校における「総合演習」の教育実践報告 —「保育・教職実践演習（幼稚園）」に向けての課題を探る—

山之内 輝 美・永 久 欣 也・古賀野 卓

## Report on Educational “Integrated Practice Subjects” of Child Care Teacher Training Schools

Terumi YAMANOUCHI, Kinya NAGAHISA and Taku KOGANO

### 1. はじめに

本研究は、保育者を養成する短期大学部において、現在は2年次前期に実施している「総合演習」の教育実践報告を行い、2011年度から開講される「保育・教職実践演習（幼稚園）」に向けての課題を整理したものである。2009年度の授業では、グループでのディスカッションや発表、活動を通し、コミュニケーションスキル、保育内容・方法の指導力、子どもの理解や保育者の役割の理解の向上に取り組んできた。受講学生の授業の振り返りの自由記述の内容や授業評価等を分析しながら、授業の成果を踏まえて、今後の課題を探るものである。

なお、本研究は、保育者養成校で新しく開講される「教職実践演習」の実施を前に、筆者らが取り組んだ「総合演習」の教育実践を全国保育士養成協議会研究大会で報告しまとめ、今後の本学科の授業内容や方法の検討や他の保育者養成校の参考になることを願い、取り組んだものである。

### 2. 保育者養成における「総合演習」をめぐる動向

「総合演習」(2単位)は、現在、幼稚園教諭免許と保育士資格取得を目指す学生にとって必修科目である。

教職課程における「総合演習」をめぐる動向は、坂井(2003)(2005)、伏木(2004)にまとめられている。また、教育実践として、全国保育士養成協議会主催の研究大会等での報告がある。<sup>1)</sup>

「総合演習」は、1998(平成10)年7月「教育職員免許法の一部を改正する法律」及び「教育

職員免許法の施行規則の一部を改正する省令」の施行により教職に関する必須科目として新設された。これに連動し、2002（平成14）年から保育士養成校においても保育士養成課程の改正に伴い新たに必修科目となった。

そして、2008（平成20）年11月には、幼稚園教諭養成課程においては「教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令」により「教育実践演習」が新設されることになった。また、保育士養成課程においては、2009（平成21）年2月「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正で授業内容が改正され、2011年から新設される「教職実践演習」に「総合演習」の内容を盛り込むことによって、「教育実践演習」を履修した場合は「総合演習」に読みかえることが可能となった。教職養成課程では、2010年度入学生から「教育実践演習」含む教育課程がスタートし、短期大学では2011年度に2年次後期開設科目として実施されることとなった。

教職課程における「総合演習」は、「総合的な学習の時間」を担当する教員の資質と力量の向上という視点で導入された。そして、横断的・総合的な課題に取り組む教育活動として、「人類に共通する課題又は我が国社会全体にかかわる課題のうち一以上のものに関する分析及び検討並びにその課題について幼児、児童又は生徒を指導するための方法及び技術を含むものとする」がねらいとされた。

今回新設された「教職実践演習」は、改正された「教育職員免許法施行規則」で、「当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く。）の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの」とされている。また、2006（平成18）年7月11日中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の趣旨を踏まえ、教員として求められる以下の4つの事項 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ④教科・保育内容等の指導力に関する事項 を含めることとされ、学生の状況等に応じ、教員として必要な知識技能を補い、実践力の補完や強化をはかることが求められている。

社会状況の変化による子どもや保護者を取り巻く環境の変化を踏まえ、2009年4月より新たに改正された幼稚園教育要領や保育所保育指針が施行され、幼稚園や保育所に求められる役割や機能が深化・拡大し、保育者の専門性や保育の質の向上が求められている。その中で、保育者養成校におけるカリキュラム改訂、授業内容や方法の見直しが行われている。

本学科では、「保育・教育実践演習（幼稚園）」として、教職課程の「教育実践演習」に保育士課程の「総合演習」の内容を含ませた内容で、2010年度入学生から養成課程をスタートし、2011年度に2年次後期開設科目として、幼稚園教諭免許と保育士資格取得を目指す学生の必修科目として実施することになっている。

### 3. 「総合演習」の教育実践内容

2009（平成21）年度前期4月～7月に実施した「総合演習」の教育実践内容を以下に示していく。

本学科の学生のほとんどは、幼稚園教諭二種と保育士資格の取得を目指し学んでいる。2009（平

成21) 年度の受講学生は126名で、本学科の2年生全員が受講した。3名の教員(2名の教育系教員と1名の児童福祉系教員)が担当した。シラバスに掲載した授業の目的、到達目標、授業の概要は以下の通りである。

(1) 授業の目的や到達目標

① 授業の目的は、地球的視野に立って行動するための資質能力を育てるための演習科目。人権、環境、開発、福祉、平和、健康、家族のあり方などの社会全体に関わる幅広いテーマについて、情報収集、分析、ディスカッション等を行う。現代社会の諸問題とともに、保育に関わる課題についても分析し判断する能力を向上させながら、最終的には児童・保護者を援助するための方法の基礎を習得することである。

② 到達目標は、

1. 保育に関する自発的で、応用力をもった学習能力・問題解決能力を身につける。
2. 現代社会の諸問題や保育に関する現代的課題について、適切に分析や検討を行うことができる。
3. 問題を発見し、その問題を解決する過程を理解し、その内容を再検討することができる。

③ 授業の概要は、

図書館やインターネットを通じての情報収集の方法を学んだり、実践を振り返りながら、課題を発見する方法を学ぶ。また、課題について、調べた内容をレポートにまとめたり、その内容をプレゼンテーションしながら、学生同士でディスカッションを行う。

(2) 授業の内容

本学科では、「総合演習」(2単位)は2年次前期開講科目で、毎週2コマずつ15回の授業を実施した。内容により、大きくは (A)第1回目～4回目 (B)第5回目～8回目 (C)第9回目～14回目 (D)第15回目に区分し、授業を行った。(ここでは、授業内容により、A～Dの区分とする)

大まかな内容は、

- (A) 第1～4回目(4回の授業)では、居住型児童福祉施設を利用する児童の理解や保育のあり方、保育者の役割等を考え合う。
- (B) 第5回～8回目(4回の授業)では、保育内容・方法の研究(室内あそび・教材製作等)を通して指導力の向上を図る。
- (C) 第9回～14回目(6回の授業)では、グループでのディベート(2回)、ディスカッションと発表(2回)、保育場面を想定した手遊び実践、フルーツバスケットの遊び方や指導法を考え合い模擬保育を行う。
- (D) 第15回目(1回の授業)では、保育者に求められている力についてのディスカッションし、授業評価や授業全体の振り返りを行う。

(A)～(C)の授業で3つの違うグループでのグループ活動を体験している。

総合演習の授業内容と保育実習や教育実習の時期を示したものが、表1である。

さらに(A)～(D)授業内容の概要を以下に示すと、

- (A) 2年次前期開講「総合演習」の授業前、1年次2月～3月の間に実施した居住型児童福祉施設での保育実習を振り返り、保育のあり方等を検討しあう。同じ実習先の施設で実習を行った学生同士のグループで実習を振り返り、保育のあり方等を検討し、発表原稿にまとめ、印刷・配布し、全員の前で発表を行う。グループは、同じ施設で実習を行った者で構成し、30グループとなった。

表1 2009年度「総合演習」(2年次前期、2単位、毎週2コマ)の授業内容と保育実習・教育実習の時期

月	回	授 業 内 容	保育実習・教育実習の時期
2 3月			2～3月保育実習Ⅰ [保育所と居住型児童福祉施設]
4月	1	授業ガイダンス(授業内容、スケジュール等) 居住型施設での保育のあり方Ⅰ(居住型施設別グループ学習)	
	2	問題発見、情報収集の方法を学ぶ(図書館における情報収集) 居住型施設での保育のあり方Ⅱ(居住型施設別グループ学習)	
3	居住型施設での保育のあり方Ⅲ(居住型施設別グループ発表)		
4	居住型施設での保育のあり方Ⅳ(居住型施設別グループ発表)		
5月	5	室内あそび・教材製作等に関するグループ活動Ⅰ	
	6	室内あそび・教材製作等に関するグループ活動Ⅱ	
	7	B 室内あそび・教材製作等に関するグループ活動Ⅲ	
6月	8	室内あそび・教材製作等に関するグループ活動Ⅳ	
	9	グループ発表およびディスカッション(3グループ別)	
10	テーマ:①②ディベート(10のテーマからの選択)		
7月	11	C ③グループディスカッション(異年齢児保育と同年齢児保育)	
	12	④グループディスカッション(少子化・子育て支援)	
	13	⑤手遊びの実践	
	14	⑥フルーツバスケットの遊びの工夫	
	15	D グループディスカッション(保育者に求められ力) 総括・授業評価	
8月		8月 保育実習Ⅱ[保育所] 又保育実習Ⅲ[施設]	
9月		9月 教育実習(後期)[幼稚園]	

出典：古賀野卓・永久欣也・山之内輝美(2009)「総合演習」筑紫女学園大学短期大学部『シラバス』、211の一部を抜粋し、授業内容のテーマ等を実際の授業に合わせ記載し、保育実習・教育実習の時期を加筆。

① 各自で振り返る。②同じ実習先で実習を行ったメンバーで、振り返りディスカッションする。③グループごと他の受講生に伝えたいことを資料にまとめ、受講者全員に配布できるように印刷する。④受講者全員の前で発表する。⑤他のグループの発表を通して学ぶ。

(B) 保育内容・方法の研究（室内あそび・教材製作等）を通して指導力の向上を図る。

全体で8グループとして活動する（1グループ14名～16名）。紙コプターづくりと指導案作成、風船と新聞紙を使った3～5歳児の室内遊びについてアイデアを出し合い、1つの遊びを考え、指導計画案を作成し、その遊びを実際に他のグループの学生も参加し行う。

特に、風船と新聞紙を使った3～5歳児の室内遊びについては、第6回～7回目の2回の授業で次のような内容で授業を行った。

① 第6回目に自ら考案したアイデアを、それぞれ持ち寄って意見を交換しながら、グループで1つの遊びを考える。グループで1つ遊びを考え合い、指導計画案を作成し、全員の学生分印刷する。

② 第7回目には実演する。実演にあたっては体育館を使用し、各班がそれぞれ場所を決め、グループごとに考えたゲームのための準備を行う → 各グループで、前半にゲームを指導する人と、後半に指導する人に分ける。→ 前半では、ゲームを指導する人以外は、自由に各班ブースを廻り、子ども役になって指導を受ける。→ 後半になったら、その人たちはゲームを指導する役に交代する。前半でゲームを指導していた人たちが今度は、廻る方になる。

その後、情報交換会を行い、時間が足りずに、廻りきれなかった班の情報を得たり、実施しての振り返りや反省のディスカッションを行う。

(C) 6回の授業で3グループ（各グループ42名ずつ、さらに必要に応じ、サブグループの3グループ14名ずつに分かれ活動を行う。）に分かれて、それぞれ3名の教員が6つの内容をリレー方式に行う。その6つ（①～⑥）主な授業内容は、

①と②の2回は、グループでのディベート。10のテーマからグループが選んだ内容のディベートを行う。自分の意見をまとめ意見を述べること、また、他の人の意見を聞くことを通して、自分の考えを整理していくことにした。

③と④ グループディスカッションと発表。③は異年齢保育と同年齢保育についてのグループディスカッションと発表。④は少子化対策・子育て支援について、KJ法を活用しカードで各自とグループで対策を整理し、模造紙に図式化し発表した。

⑤は手遊びの実践と模擬保育を行った。様々な手遊びについてビデオ等見ながら練習した後に、保育場面を想定し、一人ひとりグループメンバーの前で実演した。

⑥はフルーツバスケットの遊び方や指導法を考え合い模擬保育を行った。フルーツバスケットの遊び方や指導法について、サブグループを更に2グループに分け6～7名で考え合い、フルーツを他のバージョンで行ったり、子ども達が理解し楽しめるよう遊びの内容を工夫し、保育場面を想定し、保育者役や幼児役になり遊びを行った。

## 4. 学生の授業の振り返りアンケート結果からの分析と考察

### (1) 学生の授業全体の振り返りアンケート結果

受講学生に授業全体を通して学んだことの振り返りアンケートの結果を表2にまとめている。

授業の最終日にアンケートを実施し、当日受講生111名全員から回収した。5段階（5大変できた、4できた、3どちらともいえない、2あまりできなかった、1できなかった）での回答とした。

どの項目も平均値は4.27以上であった。上位5項目は、「自分の意見を持つことの大切さを理解すること」4.57、「幅広いものの見方や考え方を身につけること」4.56、「保育者の役割を理解すること」4.54、「話し合いや学習により内容を深めること」4.53、「遊びを工夫すること」4.53であった。

表2 受講学生の授業全体の振り返りアンケート結果

項目	平均値
1 グループへの自らの関わりについて	
① 積極的に参加すること	4.48
② 発表資料や指導案を作成すること	4.40
③ 話し合いや学習により内容を深めること	4.53
④ グループで学習した内容を発表すること	4.48
2 各授業で学んだ内容について	4.48
(1)① 居住型児童福祉施設を利用する児童や利用者を理解すること	4.40
② 居住型児童福祉施設の保育士の役割を理解すること	4.39
③ 居住型児童福祉施設における保育内容や方法を理解すること	4.39
(2) 保育内容や方法の研究（室内あそび・教材製作）、手遊びを通して	
① 遊びを工夫すること	4.53
② 子どもの前で説明する力を身につけること	4.27
③ 子どもの前で実践する力を身につけること	4.31
(3) グループでのディベート、ディスカッションと発表を通して	
① 自分の意見を持つことの大切さを理解すること	4.57
② 幅広いものの見方や考え方を身につけること	4.56
③ 話す力を身につけること	4.27
④ 他者の意見を注意深く聞く力を身につけること	4.49
3 この授業全体を通して学んだ内容について	
① 図書館やインターネットを通じての情報収集	4.36
② 保育に関する現代的課題についての適切な分析	4.32
③ ディスカッションする力を身につけること	4.27
④ プレゼンテーション（発表）する力を身につけること	4.29
⑤ コミュニケーションスキルを身につけること	4.34
⑥ 保育内容や方法の指導力を身につけること	4.32
⑦ 保育者の役割を理解すること	4.54

〔注1〕平均値の一重下線-上位5項目、二重下線-下位6項目。

出典：山之内輝美・永久欣也・古賀野卓（2009）「2年次前期「総合演習」の教育実践報告－「保育・教職実践演習」に向けての課題を探る－」全国保育士養成協議会第48回研究大会 研究発表配付資料に一部加筆。

下位6項目は「子どもの前で説明する力を身につけること」4.27、「話す力を身につけること」4.27、「ディスカッションする力を身につけること」4.27、「プレゼンテーション（発表）する力を身につけること」4.29、「保育に関する現代的課題についての適切な分析」4.32、「保育内容や方法の指導力を身につけること」4.32であった。

(2) 各授業の振り返り自由記述アンケート結果

A・B・Cの授業のまとめとして、授業の振り返りの自由記述のアンケートを行った。記述された受講学生が学んだ主な内容を、グループでのディスカッションや発表、活動を通して、コミュニケーションスキル、保育内容・方法、子どもの理解や保育士の役割について、表3にまとめている。

表3 授業の振り返りの自由記述内容の抜粋

		記 述 内 容
コミュニケーションスキル	ディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢保育について班で話し合い、また他のグループの意見を聞くことができました。保育所実習や幼稚園実習で経験した異年齢保育についてなどの話も聞くことができ、大変勉強になりました。体験したからこそわかる話もあり、まだ、異年齢保育を経験したことがない友達と話を共有することができとても良かったです(C)①</li> <li>・縦割り保育の本当の目的や社会的背景が影響していることなど改めて考えることができよかったです。良いことなのか悪いことなのか、決めるのは人それぞれだけれど、保育を進めていく中で、人間は人間の中で生きていかなければならないこと、自分一人では生きていけないことを教えていくという意味では、推進していくべき取り組みだと感じました。(C)①</li> <li>・少人数のグループで少子化について学習したことによって、受け身ではなく、自分から進んで意見を発表することができました。自分とは違う意見も近くで聞くことができよかったですと思いました。また、同じ題であっても出た意見が班で本当にさまざまなものだと感じ、みんなとても真剣に考えているのだなと感じました。ただ座って授業を受けるのではなく、クラスに関係なく意見を発表しあえるこの時間は本当に得るものばかりだったように思います。(C)①</li> <li>・自分の考えだけでなく、他の人の意見を聞くことで、見方や考え方が変わったのでも勉強になりました。(D)</li> <li>・自分の意見を人前で伝えることがあまりないのでよい経験になりました。(D)</li> <li>・コミュニケーションの幅が広がったなと感じます。多くの人と話すことで保育に関する考えが変わったり、いろいろな情報を知ることができました。また、自分たちで考え、発表するような取り組みが多かったため、みんなで協力すること助け合うことの大切さを改めて感じることができました。(D)</li> <li>・ディスカッションをすることの重要性、大変さや緊張感を学びました。自分の意見を伝えることの大変さ、相手の意見をしっかり聞くことの大変さを知りました。(D)</li> </ul>
	発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのグループも分かりやすくまとめていたし、頑張って実習に行ってきたからみんなの達成感があったように思います。みんな一年の時より緊張した様子はあまりなく落ち着いて発表できていたと思うし、誰かが一人で全部発表するのではなく、分担して全員が発表したり、資料に書いていないことを付け足しながらより理解できるような発表の工夫をどのグループも心掛けていたように思います。また、先生からの突然の質問にも何かしら答えようとしていたので、1年前に比べたら成長したなと思いました。(A)</li> </ul>



コミュニケーションスキル	<p>共感や協力、役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんながそれぞれ行った実習先で学んだことや子どもについて知ることができました。なかにはみんなが実習先で子どもとの関わり方で苦労したことなど、いろいろ共感する部分がありました。(A)</li> <li>・皆の意見一つにまとめたりすることができました。(B)</li> <li>・ゲームでは、先生役を誰がするか決める時に、私が全日保育を経験したことがなかったので、「やってみたらいいよ」と周りにすすめられて挑戦しました。(C)③</li> <li>・今日は新しいグループでの活動でした。グループ中には顔は知っていても名前を知らない子、話をすることがない子が何名かいました。今回の授業を通して仲良くなり、様々な意見や情報交換ができ本当によかったと思います。(C)①</li> <li>・クラスも関係ないグループで、今まで話す機会ない人とも話せたり、短時間でみんなと協力して1つの事を完成させることもできて良かったです。(D)</li> </ul>
保育内容・方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用しているものは風船と新聞紙だけなのに、使い方によって、こんなに色々なゲームができるのだと知りました。(B)</li> <li>・いざ、やってみると難しかったり、子ども達にできるかといろいろ工夫しました。自分でも新たに新聞紙を使ったゲームを考えたいと思います。(B)</li> <li>・実際に現場のことも考えて設定したり、今回の指導案にアレンジをくわえ、使えたらいいなと思いました。(B)</li> <li>・年齢にあった手遊びを選べるようになりました。オリジナルを作ってみるのもよいのではないかと思います。(C)②</li> <li>・これから友達と情報交換したり、本屋で見してみるなどして、より自分のものとなるよう手遊びを増やしていけたらいいなと思いました。(C)②</li> <li>・今日は、みんなで製作をしたあとに、フルーツバスケットをしました。みんなで案を出しあうといっぱいになるし、自分では思いつかないこともたくさん気付けるのでよかったです。実際にメダルをつけて遊んでみると、ここはもっとこうしたほうがいいのか、いろいろ知ることができるのでこの機会(授業)があって本当によかったです。次の実習でフルーツバスケットをやってみようかなと思いました。(C)③</li> <li>・“フルーツバスケット”という一つの遊びからでもルールを変える事によりまた違った遊びの楽しみ方が出来るということが、実際に自分達でやってみて分かりました。また、遊ぶまでの課程としてさまざまなペンダントを作り、そのペンダントでもグループによって作り方が違って、たくさんの情報を取り入れられる授業だったように思いました。(C)③</li> </ul>
子どもの理解や保育士の役割について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの施設も利用者の方や子どもたちとの関わり方として、一人一人向き合って対応していくことが大切だと学びました。コミュニケーションがとれなければ、施設の子もたちや利用者の方とも心を通わせることができません。だから、積極的に話しかけて子どもたちを理解し、関わり、子どもたちのサインに少しでも気づくことが大切だと思いました。(A)</li> <li>・施設ごとにその援助の仕方も様々で、利用者の方との関わりも異なっていた。でも、どの施設でも利用者の方が人の支えを必要としているということが共通で、それを与えることが出来るのも保育士ということです。(A)</li> <li>・現在の社会の現状についても改めて考えたので、これからも現状を把握しつつ、自分なりに色々と考えていきたい。(D)</li> </ul>

【註1】文末の( )内の記号は、以下の授業内容での振り返りの自由記述を示している。

(A)－居住型児童福祉施設での保育のあり方 (B)－保育内容・方法の研究(室内あそび・教材製作等) (C)①－ディスカッションと発表 (C)②－手遊びの実践と模擬保育 (C)③－フルーツバスケットの遊び方や指導法 (D)全体

出典：山之内輝美・永久欣也・古賀野卓(2009)「2年次前期「総合演習」の教育実践報告－「保育・教職実践演習」に向けての課題を探る－」全国保育士養成協議会『全国保育士養成協議会第48回研究大会 研究発表論文集』93に一部加筆。

## 5. まとめにかえて

- (1) コミュニケーションスキルの向上、保育内容・方法の指導力の向上、子どもの理解や保育者の役割の理解に向けての課題

授業全体の振り返りアンケート結果からみると、おおむね基本的な内容を学びあっていると思われる。比較すると、理解に関する項目は上位であり、説明したり、ディスカッションする力、分析、指導力については下位であった。

2009年度の「総合演習」は、担当教員3名での1年目の取り組みであった。演習科目であり、学生が主体的に自主的に授業に取り組むことを基本にしながら、様々なグループでの活動を通して（今回は、大きくは3つのグループに所属しての活動）授業を展開していった。同じグループに固定しての15回の授業を展開することも考えられるが、様々な人との関わり、協力しながら授業に主体的に取り組むことを目標に、主に3つのグループでの体験とした。保育者になるために実践的に学べる内容を取り入れ、担当教員の専門を生かし実施した。今後も学生の授業の振り返りや授業評価等を通しての意見を参考に授業内容や方法をさらに検討していきたい。

- (2) 「保育・教職実践演習（幼稚園）」の開講時期と保育士養成課程のカリキュラム改正に伴う課題

現在、「総合演習」は2年次前期の開講科目である。2009年度の授業内容を大きく3つに分け展開したのは、実習時期を考慮してのことである。

特に、(A)と(B)においては、1年次の2・3月の保育実習Ⅰの居住型施設の実習を振り返り、保育のあり方を検討し、以降の実習や保育者としての実践に生かせることを考慮した。また、5月下旬から6月上旬に実施する教育実習（前期）に向けての準備を終えて、次の実習に向けての教材や指導計画案作成等保育実践に生かすことを授業に取り入れた。

2011年度から開講する「保育・教育実践演習（幼稚園）」では、2年次後期開講科目となり、実習を終え、就職に向けての活動中あるいは就職先が決まった時期で2年間のまとめの時期として、そして、4月からは現場で仕事をしていることを想定しての授業内容や方法を検討していくことが求められている。

また、保育士養成課程においては、2010年（平成22）3月に保育士養成課程検討会により「保育士養成課程等の改正について（中間のまとめ）」がまとめられており、2011年入学生から新しいカリキュラムを実施する方向で検討すべきとの方針が出されている。厚生労働省の『「保育士養成課程等検討会中間のまとめ」の送付について』（2010. 3.24）の事務連絡では、改正の実施時期については、出来るだけ早く検討を進め、周知したいとの考えが示されており、早ければ2011年度から新しいカリキュラムを実施することとなる。

本学科の現行のカリキュラムから考えると、「保育実習指導」関係の時間数を増やす事等開講科目や時間数、教員の担当科目の見直し等を行う必要が生ずる。今後、求められるカリキュラム改定内容を踏まえ、本学に入学し保育者を目指す学生にとって、1年前期、1年後期、2年前期を

終えて、2年後期の時期に必要な保育者としての総合的な実践力の向上に向けた、授業内容や方法をさらに検討していきたい。

#### 註

本稿は、全国保育士養成協議会第48回研究大会（2009年9月）で研究発表を行った内容に加筆し、まとめたものである。

- 1) 毎年開催される全国保育士養成協議会研究大会では、保育士養成校教員による様々な教育実践報告が行われている。2009年度全国保育士養成協議会第48回研究大会での「総合演習」に関する研究発表では、本学科の他の教育実践報告として ①寺島明子「保育者養成における総合演習（幼児教育と人権）に関する科目の意義とそのあり方(1)－総合演習（幼児保育と人権）における自己表現活動の実践－学生が作成した教材から考える」 ②木許隆「学生自ら学ぶ意欲を持つために～「総合演習」における試み～」があった。

#### 参考文献

- ・古賀野卓・永久欣也・山之内輝美（2009）「総合演習」筑紫女学園大学短期大学部『シラバス』211.
- ・伏木久始（2004）「教員養成カリキュラムにおける「総合演習」の教育方法上の課題－総合的な学習の指導力量形成との関連に着目して－」『信州大学教育学部紀要』No112, 193-201.
- ・小川哲男（2000）「これからの教師に求められる資質能力と総合演習カリキュラム」『學苑』718号、昭和女子大学近代文化研究所, 38-40.
- ・坂井旭（2002）「「総合的な学習の時間」と「総合演習」の動向－パート1.「総合的な学習の時間」に対する取り組みのすがた－」『愛知江南短期大学紀要』31, 79-97.
- ・坂井旭（2003）「「総合的な学習の時間」と「総合演習」の動向－パート2.「総合演習」ノート－」『愛知江南短期大学紀要』32, 69-91.
- ・杉山浩之（2009）「協同の文化をつくる学校」岡東壽隆監修『教育経営学の視点から教師・組織・地域・実践を考える－子どものための教育の創造』北大路書房, 143-153.
- ・山之内輝美・永久欣也・古賀野卓（2009）「2年次前期「総合演習」の教育実践報告－「保育・教職実践演習」に向けての課題を探る－」全国保育士養成協議会『全国保育士養成協議会第48回研究大会 研究発表論文集』92-93.
- ・全国保育士養成協議会（2009）『全国保育士養成協議会第48回研究大会 研究発表論文集』

（やまのうち てるみ：幼児教育科 准教授）

（ながひさ きんや：幼児教育科 准教授）

（こがの たく：幼児教育科 教授）